



武力よりも対話を

豊里中学校 1年 はらだ 原田 もね 萌音

「ザー」

八月九日十一時二分、サイレンが鳴り、私たちは黙とうした。七十八年前の今日、ここ長崎に原子爆弾が投下された。一瞬にして約七万人の命が奪われたのだ。

今年、祖父母の家に帰省した。その時に、長崎の原爆資料館に行った。そこでは、十一時二分で止まった時計、人の影が映った板壁、ボロボロになった服などの展示物を見た。また、当時の写真も展示されていた。大きなやけどを負った人や、全身黒焦げの焼死体、つぶれてバラバラになった建物。展示物を見るたびに、私は胸が押しつぶされるような思いになった。

中でも私が特に辛いと感じた写真は、焼死体の前でぼうぜんとする人の写真だ。ガイドさんから、この写真についてくわしい話を聞かせてもらった。

「写真に写っている焼死体はお母さんで、立っている人は娘さんです。娘さんは働いて初めてもらったお給料でお母さんにかんざしをプレゼントしました。この娘さんが用事で他の町に出かけている時に、原爆が投下されました。お母さんを探すために帰ると、たくさんの焼死体の中、自分がプレゼントしたかんざしが頭についている焼死体を見つけ、すぐにお母さんだと分かったそうです。」

この話を聞いたとき、胸がしめつけられるような思いになった。帰ると家がつぶれていて、家族や友人が焼死体になっている。もし私がそんな状況になったら、自分はどうしたらいいかわからないし、何よりとても辛いと思う。戦争は、被害にあった人もあっていない人も辛い思いをする。写真に写っている娘さんの他にも、家族や友人を失って辛い思いをした人は何人もいて、原爆の被害を受けて辛かった人も大勢いる。だから私は、長崎に帰ると毎年必ず黙とうをして、戦争で辛い思いをした人たちに想いをよせる。そして、辛い思いをした人の分も、幸せに生きていきたい。

私は、原爆資料館に行って、原爆のおそろしさを知ることができた。また、ガイドさんの話を聞いて、展示物を見るだけでは分からない、その人の物語が分かり、深く考えるきっかけになった。

家に帰ると、長崎の新聞を読んだ。そこには、戦争に関する記事がたくさんあった。半分以上が戦争に関する記事で、京都で読む新聞と違うことにとても驚いた。

綾部にいるときは、戦争について深く考えることはあまりなかった。しかし、実際に原爆が投下された長崎に行き、原爆資料館で展示物を見たり、ガイドさんの話を聞いたり、新聞を読んだり、黙とうをしたりして、戦争について深く考えるきっかけになった。被爆国である日本が、原爆の悲惨さを訴えてきたことが核兵器使用の抑止力となってきたと思う。これからも、原爆のおそろしさを絶対に忘れずに、私たちが訴えていかなければならない。

「武力よりも対話を」

そんな世界を、私は切に願う。



戦争と平和は反比例する

豊里中学校 1年 あさだ 浅田 りん 鈴

私は戦争という言葉を知ると悲しくなります。私と同じ感情になる人もいますでしょう。

戦争とは、大人同士のけんかです。なぜ私達は大人のけんかに巻き込まれて辛い思いをしないといけないのでしょうか。この戦争によって、たくさんの命が失われます。大切な人や家族がいるのに戦争に行かないといけません。

この世界はたくさんの愛であふれています。その分、深い闇もあります。つまり、いい人がいれば悪い人もいますということです。

しかし、自分の命を犠牲にしてまで国を守ろうとする人がいます。世の中はなんて不平等なのでしょう。戦争はたくさんの物を奪ってしまいます。幸せ、自然、命、他にもたくさんあります。結局、人間は自分勝手な生き物のようです。みんなを否定したいわけではありません。生き物には「欲」があって、それにどう対応するかで変わってきます。欲望で満ちた気持ちを理性で保つのか、そのままの本能で動くのか。しかし、ずっと理性を保ち続けることはできないでしょう。

私は、人や自分に迷惑をかけない程度なら本能のまま動いてもいいと思います。人間は他の生き物とは違って、理性を持っています。それなのに、戦争を引き起こしてしまうことがとてもなぞです。

人間には命が一つしかありません。とても些細なことで命を失います。事故や病気で命を落としてしまった場合は、仕方がないことなのかもしれません。ですが、戦争で命を落としてしまうことは、仕方がないことだとは思いません。望まない戦いに無理矢理連れて行かれて命を奪われるのは絶対に違います。相手側も望んで戦いに来ているはずがありません。お互いに顔も知らないし、悪いこともされていないのに、なぜ殺しあわないといけないのでしょうか。これが今の世の中の現状と考えると、とても心が痛みます。本当にひどい世界です。この世界に平和という言葉が存在しているのが、まるで嘘のように思えます。これまでにあった、たくさんの戦争の記憶は消えないし、歴史にもしっかり残っています。でも、それは過去の話であって、「これから」に注目すればいいのではないのでしょうか。過去にあった失敗を取り消すことはできませんが、この失敗を二度と繰り返さないということはできます。平和という言葉が存在するのなら、私はみんなが幸せと思えるような世界を作っていきたいです。

今は人を区別する用語がたくさんありますが、私達の祖先はみんな同じだから仲良くしよう、ということではありません。自分と同じ考えの人と出会えるのって、奇跡だと思いませんか。でも、考え方が違う人と会うことによって新しい見え方が見つかるかもしれません。自分と違う考えを持つ人を理解できない人や、理解できない場合があるかもしれません。そこですぐに否定したくなるかもしれませんが、心の隅に一つの意見として取り入れることはできないのでしょうか。否定をする前に冷静に考えてみませんか。これと同じで、戦争も冷静に考えていたら起きていなかったのかもしれません。私は、戦争のせいで辛い思いをしている人がいるのがとても悲しいです。一人で悩む前に、誰かに相談してみませんか。悩んでいたたり、苦しんでいたたりする人がいたら、助けてあげたいし、助けを求めたいです。この世界を幸せであふれさせたいし、この世界を平和で埋め尽くしたいです。

最後に一つ言いたいのは、戦争と平和は反比例するということです。なぜなら、どちらも真逆の存在だからです。私は平和と幸せを比例させたいなと思います。



誹謗中傷のない世界に

豊里中学校 1年 なかえ 仲江 はるま 春馬

綾部市は、世界で初めて昭和二十五年十月十四日に世界連邦都市宣言をしました。僕は、中学生になり、学校で初めてこの事を知りました。その後、二千十三年には二百四十八の自治体が世界連邦都市宣言を表明しています。これは、現在の自治体千七百十八の十四%程であり、みんなの少しずつの努力なので、さらにこの数が増えていくといいと思います。世界連邦都市宣言をしたのが嬉しいし誇りに思います。一体どんな事なのか、改めて学びたいと思いました。

「世界連邦」とは、国家間の紛争や環境問題など一国では解決できない地球規模の課題を扱う民主的な政府です。ただし、世界を一つの国にするのではなく、各国がお互いに独立を保ちながら、国家を越えた権威と権限を有する国際機構による「一つの世界」として、国境を越えた地球レベルの諸問題の対応・解決をしようというものです。この考えはすごいと思います。世界の差別や戦争から人類を救うための新しい世界のきまりによって、新しい世界を創ってこう、世界の平和を築くために、人間として世界市民として国を超えてお互いに連携をし、住みよい世界を創ろうという運動になりました。実際に何をすればいいのか、何ができるのでしょうか。大きな事で自分にとってできる事はあるのかわかりません。でも今回、作文で世界連邦や平和について考えることで、友達や家族に伝えることができると思います。また、綾部市は世界平和を願い、機会があるごとに「平和の女神像」「平和の鐘」「平和の像」「平和の塔」などのモニュメントを建てたり、催しを開いたりして平和都市として歩んできています。僕も五歳の頃、父に連れられてお盆に平和の鐘がある藤山へ登り、綾部市民平和祈願の集いに参加したことがあります。今思えば、平和を願う活動に参加していたんだとその大切さに気づきました。これからも、家族と一緒に参加していきたいです。

身近な所から問題になっているインターネットでの誹謗中傷の被害者のことを考えると、悲しく思います。

「相手の気持ちを考える」

この事を僕は大切にしていきたいです。



今、私たちに出来る事

豊里中学校 1年 はらだ 原田 りな 莉奈

「黙祷」

テレビからその一言が聞こえ、私は目を閉じた。にぎやかだった部屋が静まり返った。

一九四五年、八月九日午前十一時二分に長崎へ、原子爆弾が投下された。一瞬にして約七万の命がうばわれた。そのとき、長崎にいた人はどんな気持ちだっただろうか。もし私がその時に、生きていて大切な人、家族を失ったら悲しくてたえられないと思う。そういう悲しみを感じたくない。他の人にも感じてほしくない。そのために自分から何かしたいと思った。この時、ふと二年前の夏の事を思い出した。二年前、私は長崎の原爆資料館に行った。そこには熱風などで折れ曲がった時計や、とけたガラスの中に手の骨があったりした。今でもはっきり覚えている。見ただけで胸がしめつけられるような思いになった。その帰り道、祖母と祖父が曾祖母から聞いた事を教えてくれた。それは原爆の爆風と熱風のことだった。

「原爆が投下された時、五〜六キロメートル離れた場所でも自分の所に爆弾が落ちたと思うくらいすごかった。」

と言っていた。ここで私は、爆弾だけじゃなく爆風や熱風でも死人がでてしまうという事を知った。人が死んでしまうぐらい熱かったら、もちろん植物も焼けてしまう。たくさんの自然が破壊される。たった一発の爆弾が数え切れないほどの大切な物、命を奪ってしまうのだ。それも一瞬ではない。その後に放射能などで苦しむ人も何千、何万といる。そういう苦しみをわざわざ作り出すのはおかしいと思う。だから原子爆弾や、さまざまな核兵器を使う事、作り出す事を私は絶対に許せない。だが、私はある事がふと頭にうかんだ。「日本は何もしていないのだろうか」そんな事はない。原爆だって日本から戦争をはじめて投下されたのだ。日本は原爆資料館や原爆ドームを残して「こんな事をされた、壊された」と主張している。でも「こんな事をしてしまった、壊してしまった」と表すものはない。日本だって相手の国の物、命をたくさん奪っているはずなのに。日本がやってしまった事、犯してしまった事を残すことも大切だと思う。「こんなひどい事をしてしまった。だから今後そういう事がないようにしよう。」と思えるからだ。このような事は意外と身近にある。例えば、友達と喧嘩したとしよう。するとたいいてい人は「誰に何をされた」と人に言うだろう。でもそうなったのは、自分にも原因があったのではないだろうか。自分の過ちを見直す事で、問題の解決へとつながるのだ。世界の事だからと難しく考えがちだが、自分や周りをよく見ると、似たような場面がたくさんある。だから戦争なんて、喧嘩と同じようにいつでもやめられると思う。でも核兵器を作っているから、海にも捨てられないし、どこかに打つわけにもいかないのですと人を殺せる兵器を持つ事になる。そうなるのなら最初から作らなければいいだけだ。核兵器を作って得するのはごく一部の人間だけで、ほとんどの人は苦しみや悲しみを感じてしまう事になる。そういう自分勝手な世界をみんなが笑顔で安心して暮らせる世界に変えたい。しかし、いきなり世界を変えるのは非常に難しい。だからまずは自分たちに出きる事を考え、変えていこうと思う。

これから先、たくさんの嫌な事があると思う。だが、それには自分にも原因があるだろう。だから、まずは自分の事だけでなく周りの人の事も考えて暮らしていこうと思う。それが今、私たちに出来る事だ。その考えが周りにも広がって、いつか世界中の人全員が幸せで、全員が笑顔で戦争のない世界になってほしい。そう願いながら

「黙祷」

テレビからの一言で、私は目を閉じた。



[世界平和]

上林中学校2年 いなば 稲葉 びわこ 枇杷子

今、世界は平和であるといえるのでしょうか。私は、言えないと思います。なぜなら、紛争や情勢の悪化による争いが、ニュース番組などで連日放送されています。そして、その争いによって、毎日多くの方が犠牲になっています。戦争とは関係のない人たちが傷つく世界は、平和だとは言えません。日本もかつて、戦争をしていました。たくさんの方が亡くなり、戦争が残した爪痕はとても深いものだと思います。しかし、日本は、「もう戦争をしない」と決めて復興し、争いのない国に再生しました。ですが、日本のように、全ての国々が「もう戦争をしない」と誓い、争いが無くなって初めて、[平和な世界] が実現すると思います。

私は、戦争の様子と人々の思いを知るために、インターネットで調べてみました。調べた結果、こんな話がありました。ある女の子の祖母の叔父は、レイテ沖海戦で戦艦武蔵に乗り、戦ったそうです。しかし、アメリカ軍の空からの激しい攻撃に手も足も出ず、沈んでしまいました。武蔵は日本が建造した最後の戦艦で、世界最大級の大きさだったそうです。甲板の側面は厚さ約四十センチメートルの鋼鉄でおおわれ、当時不沈船と呼ばれていました。しかし、攻撃を受けて速度が低下してしまった武蔵は、ただの大きな標的になりました。不沈船は、その力を発揮することなく沈んでしまいました。叔父は出征の日、家族にこんな言葉を残して行きました。「武蔵がやられたら日本は負ける。武蔵が沈んだら、米軍が攻めてくるかもしれないから山の奥に逃げなさい。」と。私はこの話を読んで、私だったら恐怖で自分のことしか考えられなかったと思います。最後まで家族のことを気にかけていた叔父の優しさに胸がいっぱいになりました。叔父は家族思いで、部下思いでもあったそうです。叔父は当時足をけがして、戦時は、けがや病気になっている人は、戦争には行かなくてもいいそうです。大切な家族を戦争に行かせたくない家族は、軍にけがをしていることを申し出てはどうかと提案しましたが、叔父は「私は部下だけを戦場に行かせることはできない。」と断り、戦場に行ったそうです。私は部下を思う叔父に心打たれました。

沖縄県の摩文仁の丘という場所にある平和の礎には、戦没者の名前が刻まれていて、その数は二十四万人を超えていて、叔父の名前も刻まれています。叔父を大切に思う家族がいたように二十四万人それぞれに大切な家族がいたはずですが、その家族は、どんな気持ちで大切な家族を戦場に送ったのだろう。大切な家族が危険な所に行かなければならないなんて、私には到底考えられません。この世界が平和だったら「こんな悲しいことをしなくてもいいのに」と私は思います。また、大切な家族が戦死したと知ったとき、どんな気持ちだったのでしょうか。きっと戦争がなければ、もっと一緒に暮らせていたのではないのでしょうか。あたり前でありながらもあたり前ではない、一緒に暮らすという日常さえも奪っていく戦争などなくなればいいと思ったのではないのでしょうか。祖母は話の終わりにこんなことを言っていました。「戦争は残酷だよ。みんな戦争のない平和な世界がいいと思っているはずだよ。」

戦争は、大切な家族や、あたり前に感じていた日常も奪う残酷なものです。大切な人を亡くした悲しみは、計り知れません。こんな悲しみを生み出す戦争など、ないほうがいいのです。だから、戦争を乗り越え、争いのない国を実現させた日本から、平和の尊さ、大切さを世界に広めることが大切だと思います。私は、この話を [平和な世界] の実現のために少しでも役立つと信じて広めていきたいと思っています。



食品ロスを減らすために

西八田小学校6年 むらさわ 村澤 ねねか 音々花

私が食品ロスに目をつけた理由は、国語の学習で食品ロスについて調べたとき、世界では年間十三億トン、日本では六百十二万トンの食品が捨てられていることを知ったからです。日本は食品ロスランキング世界十四位と人口が少ないわりに上位に入っており、日本の食品ロス問題がかなり深刻化しているという事が分かります。

「食品ロス」とは、本来まだ食べられる食品を捨ててしまうことです。この問題はもったいないだけでなく、食品を焼却処理するので、余分な二酸化炭素が増え、地球温暖化を進めてしまう原因の一つにもなってしまいます。

食品ロスは、スーパーなどの食品関連事業者だけでなく、家庭でも起こっています。私の西八田小学校でも、給食の残菜があり、全て集めると、一日で一人分の給食の量ほどの残菜になります。原因としては配膳後に食缶についた野菜等や、食後の器についた食べ残し、食べきれずに残してしまった物が残菜として捨てられていることが考えられます。

このような一般家庭や食品関連事業者、学校などで起きている食品ロスをなくすためには、スーパー等では食品をできるだけ前から取ったり、買う量を事前に決め、余計な物は買わないことを心がけること、給食で配り残しがないようにすること等、少しでも食品ロスが減らせるように、できることからやることを一人でも多くの人が意識してすることが大切です。そうすれば、日本だけでなく世界の食品ロスもなくせるのです。

今、世界では九人に一人が栄養不足で亡くなっているそうです。世界中の人々が幸せに健康で過ごすには地球という星に住んでいるみんなが食品ロスという分厚い壁に立ち向かい、少しずつ減らしていくことが重要です。

世界中のみんなが一人一人ができることから取り組むことで協力し合い、私たちの地球を良くしていくお手伝いをしてみませんか。



地球を守るためには何ができるのか？

豊里中学校 1年 ^{いづみ}和泉 ^{さら}桜空

今地球は、海洋汚染、化学物質・有害廃棄物の越境移動、地球温暖化、生物多様性の減少、鉱物資源やその他資源の減少、ゴミのポイ捨て・食品ロス、森林破壊・砂漠化、酸性雨などなど様々な問題を抱えています。その中で私が思う地球問題は、ゴミのポイ捨て・食品ロスです。

ゴミのポイ捨ての主な原因は、技術が発達し、便利な時代になった分、耐久消費財のひんぱんな買い替え、過剰包装、使い捨て商品の増加、生活雑貨など、安価に入手可能になったゆえに物を大切にしなくなったなどが原因として挙げられます。また、食品ロスも増えています。食品ロスとは、まだ食べられるのにはいきされる食品のことです。

それでは、年間のゴミのポイ捨て量はどのくらいでしょう。二千二十年三月に発表された、二千十八年度のゴミ総排出量は年間四千二百七十二トンにもものぼります。東京ドームに例えると約百十五杯分もの量をはいきしていることとなります。また、食品ロスは年間約六百十二トンにもものぼり、国民一人当たりで換算するとお茶碗約一杯分の食べ物を毎日捨てている計算となります。すごくもったいないですね。

ゴミ問題によってさまざまな悪影響が及ぼされます。それらをなくすために自分たちができることはやっぱりゴミ拾いだと思います。見つけたら拾ってしっかりとゴミ箱に捨てる。これが大事だと思います。私は実際に町区の子と一緒に自動販売機のゴミ箱付近を掃除したことがあります。すごくゴミ箱がいっぱいでペットボトルを入れられない状況だからといってポイ捨てしている人がいて汚かったです。最初は正直めんどくさいなと思ってやっていたけれど、掃除していくうちにだんだん綺麗になっていくゴミ箱付近を見て気持ちが良いという感情を持ち始めました。夢中になってやっている内に夕方、夜、と時間が過ぎていきました。そして片付けが終わった時には始めた時とは全然違って、自分たちで片付けたんだ！と、すごく達成感がありました。また、学校の取り組みで、給食を全部完食するという取り組みをしました。あまり食べられない人はよく食べる人にあげたりと工夫して、みんな完食することができました。そういった取り組みがあると確実に食品ロスや、ゴミの量が減ると私は思います。

日常の中で簡単にできることはたくさんあります。例えば、本当に必要なものだけ購入することや食べられる量だけ注文する、買い物に出かける前に、冷蔵庫等の在庫を確認する、食べきれないほどの食材を買わないようにする、ばら売りや量り売り、少量パックなどを利用する。すぐに食べる商品は、賞味期限や消費期限の長い商品ではなく陳列順に購入する。それだけで、いきする量も減りますし、生産過程で生まれるゴミも減らすことができます。普段の生活の中で、少しゴミについて意識を向けてみましょう。



環境を守るために僕たちにできること

なかがわ せいしろう
豊里中学校 1年 中川 誠士郎

さっそくですが、みなさん僕たちには地球環境を守る責任があります。僕たち一人一人の小さなことで地球の未来に影響を与えてしまうことを、忘れてはいけません。

そこで、僕たちが環境を守るためにできることを考えてみましょう。

一つ目は、「節約」です。資源を大切に使うことで、地球温暖化の進行を遅らせることができます。「節約」には、水を無駄に使わないことや、電気を消す、食べ物を無駄にしないことなどがあります。これらの小さな行動が資源の無駄使いを減らし、環境への負担を軽くするのです。

二つ目は、「再利用」です。「再利用」とは、一度使ったものを、形を変えずにもう一度使うということです。使い終わったものを捨てる前に、どうしたら「再利用」できるか考えてみましょう。古着をリメイクしたり、着なくなった服を誰かにあげたり、プラスチック製品を「再利用」したりすることで、ゴミの量を減らし地球にやさしいサイクルを作ることができます。

三つ目は、「自然」を守ることです。僕たちの生活は、自然ととても深く関わっています。森や海、動植物が健康であることは、僕たちの健康にもつながります。ゴミをポイ捨てせず、きれいな自然環境を保つことは、僕たち自身の幸福につながるのです。

四つ目は、「協力」です。例えば、ゴミ拾いを一人でも全然ごみを拾うことができません。しかし、みんなで協力してごみ拾いができたら、ごみを拾う量は何倍にもなります。なので、学校や地域で環境活動に参加し、みんなで力を合わせて取り組むことが大切です。

五つ目は、「未来」を考えることです。僕たちの今の行動が未来の地球に影響を与えることを理解する必要があります。地球環境を守るための取り組みを継続することで、未来を明るくすることにつながります。

そして一番大切なことは、「資源」です。資源は有限であり、使いすぎると将来の問題を引き起こす可能性があります。一つ目にあったように、節約に心がけることが大切です。水や電気を無駄に使わない、お風呂に入っている時にシャワーを流しっぱなしにしない、電気を使わない時はコンセントを抜くことなども大切です。

このように、僕たちには地球環境を守るために、いろいろなことができます。資源の節約、再利用の推進、自然の保護、協力の意識を持ちながら、未来のための行動をしましょう。僕たちの積み重ねた努力が美しい地球と未来へつながることを信じて、一歩ずつ前進していきましょう。

みなさん一人間として、地球環境を守るために行動しましょう。



地球に対する感謝

豊里中学校 1年

まるおか こうたろう
丸岡 晃太郎

まず、僕は世界連邦推進というものを知らなかったので調べてみた。すると、国際連合の改革と強化を通じて世界法治共同体の実現を目指すものであり、世界各国が世界の恒久平和と人類の福祉を築いていこうとする運動である。ちなみに、僕達が住んでいるこの綾部市では、戦後間もない昭和二十五年十月十四日に全国で一番に、「世界連邦都市宣言」をしたのである。

今、綾部市では主に、「平和をねがい、祈りのあるまちにしよう」と謳っているほか、機会があるごとにモニュメントを設置するなど、世界連邦・平和促進のための取組を継続している。

僕は最近、気になることがある。それは、地球の環境についてだ。最近では、北極にある永久凍土が溶けたり、色々な地域で異常気象になって、雨が降る所は災害級の雨が降ったり、逆に雨があまり降らない所では干ばつになったり、水がなくなり飲み水すらないということが世界各地で起きていることだ。つい最近、僕が住んでいる綾部市では台風七号が直撃し、異常な雨が短時間で降っていた。場所によっては土砂災害なども起こっていた。その地域に住んでいる人は、「昔からずっと住んでいるけどこんなことになったのは初めてだ。」とおっしゃっていた。僕は身近に災害が迫ってきているんだなと感じた。最近の雨は短時間でとんでもない雨が降るので避難しようと思っても外は川みたいになっていて逃げられないようなことがあるのでとても怖いと感じた。僕が考える具体的な対策は、雨雲レーダーもはずれることはあるということを知っておくこと・自分の目で外の雲はどうなっているのかを確認することだ。正直、これからは想定できない災害は絶対に起こる。だから、事前に災害が起きてても被害を少なくする工夫などをしておくことが大切だと感じる。

実は、おじいちゃんの家には横に川があって、僕はよく魚をとったりする。その時に気になることがあった。それは、川がいつも少しにごっているということだ。気になったのでおじいちゃんに昔も川はこんな感じだったのと聞いてみることにした。すると、「昔は水がとう明で国の天然記念物のオオサンショウウオもいた。」という意外な答えが返ってきた。僕は少し考えてみた。なぜ水がよごれるのかを。すると答えが分かった、それは雑排水や、農業によるよごれだ。やっぱり原因は人から始まっていた。

僕は生き物がストレスなく住める環境を作りたい。そのためには、地球温暖化を止めなければならぬ。僕が最近している小さな対策がある。それは節電だ。それも一人だけでしてもあまり効果はない。でも世界の人々がみんなしたら大量のエネルギーを無駄にしなくてすむ。そのエネルギーを他の必要なことに使える。節電をすることはいいことだらけだと僕は思った。

僕はこの作文を通して、地球で過ごさせてもらっている感謝を伝えるために、「地球環境に良いことをする。」ということを誓う。